

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.33 2013年2月7日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。先日の夕刊「フンコロガシ(スカラベ)は糞球を巣穴へ運ぶのに天の川をナビにしている」との記事に触発され、遠い昔読んだファーブル昆虫記に戻りたくて、新訳第1巻購入。昆虫の生態は興味が尽きません。ひときわ寒かった今年の冬ももうすぐ終わり。庭の土中でたくさんの虫たちが春を待っているでしょうね。神学生たちも何かを待つ季節。みことばをナビにまっすぐ進んで、と祈るばかりです。

「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる」(イザヤ40:31)

校長 関野祐二

● 年度末風物詩

2月に入れば後期もあと一ヶ月少し(皆さん息切れ。教師もレポート採点の山)。来年度の進級や継続、あるいは終了を申請する書類を各自が提出し、現在は2013年度前期履修届提出期間。年明けから始めた個人面談(物置然の校長室で)も半ばを過ぎ、在校生の動向と進路、祈りの課題がだいぶ見えてきました。神学生時代は、美しく言えば胎動期(巣立ち前の揺籃期とも)、ラディカルに表現すれば身分不安定な危機的状況。無限の可能性を秘めた器は、厳しい学びや経済環境、心理的圧迫、家族の問題などに揺さぶられ、暗きガリラヤ湖の小舟よろしく、将来の定まらぬ不安の中で召しを問われます。だから、神学校側からの教育とかアドバイスにとどまらず、寄り添い伴走する必要を覚えるのです。筆者の神学生時代を思い出し、昔話を引き出される場合も(まだ何もわからぬ二十代でした)。あれから23年(40年じゃないヨ)、感慨無量です。「先生、遠くを見ていないでワタシの話、聴いてください!」。ごめんごめん、それで祈祷課題は何だっけ?

● 銭湯通いもまた楽し

都心が大雪に見舞われたあの夜、事件は起こりました。雪かきで疲れた身体を温めようと、日付もとうに変わった深夜、給湯器のスイッチに指を伸ばして愕然。表示パネルのライトが消えているのです。電子工学科出身でも太刀打ちできず、眠れぬ夜を過ごした翌朝から、我が家の試練が始まりました。毛穴が締まって美肌になる(ヒツクナイ)という冷水洗顔、おちょぼ口の歯磨き、油汚れの落ちない(と思われる)冷水皿洗い、そして夜の銭湯です。退屈で風呂嫌いゆえ、夜授業終了(21:25)で学生を早々に追い出し(図書室に居たりします)、神学校施設を完了して身支度を済ませ、23時閉店前の銭湯に滑り込むべく雪道を歩くのは、気の遠くなるような苦行。目黒在住13年目にして初銭湯(戦闘?)です。給湯器が大型で代替品手配に時間がかかるとの業者説明にも気持ちが暗くなりがち。こんな時こそ「数えてみよ主の恵み」ですね。至近距離に、湯温の異なる(コレ本当。近くは熱いよ)銭湯が二軒あるロケーションなんて奇跡。いつも当たり前に使ってきたお湯がそうでないことに気づかされたし、東北被災地で厳冬を過ごす方々にも

思いを馳せる機会となりました。さすが家族5人で毎日通うわけにもいかず、神学校のゲストルームシャワーも併用。これがまた、24時間営業で他人を気遣うことなく恵みなのです。待つこと10日（まるで一ヶ月の感覚）、ついに給湯器入れ替え。なんと新型は、湯温を変えると女性の声でしゃべります。まさか、「恵みがわかりましたか」「早く寝なさい」とはしゃべりませんが。

● 超えている先生たち

聖契神学校で教鞭を執る14名の教師、その共通点は何か。牧会の現場に今携わっているのはそうですが、宗教改革の遺産である「キリスト者の自由」を体現し、どこか「超えている」ことでしょうか。チャペルタイムにそれはよく表されます。ヨシュア記連続講解で舌をかみそうな地名をものもしないA先生、ギター片手にマニアックな讃美歌史を朗々と語り続けるT先生、ユダヤジョークがネタ切れ気味のM先生（古墳探索の話は超えてますよ）、どんな聖書テキストでも必ずディポジション奨励に収束するO先生（超えてるチャンピオン）、ビックリする米国ネタ連発のC先生、誰もがうなる知患者K先生（説教ならぬ説法とのウワサ）、情感豊かなのに綿密なスリーポイントはさすが理数系のRS先生、日本人以上に日本語が美しいP先生（背が高いから声が会衆の頭上を超える）、後期は授業が午後でチャペルタイムにお会いできない阪神一筋H先生、神学生時代から超えていた万年青年のSM先生（会衆席で睨む教師三人を恐れている様子）、聴いているだけで牧会された気持ちになるMM先生（牧会の忙しさも超越的）、クリスマス会再演がチャペルでもあるのではと冷や冷やもののMa先生、霊性も守備範囲も発想も超えているY先生（著書が売れに売れてますよ）。かくいう自分は一番標準的と思っているのですが、さて。天高く思いは宇宙へ、ということで、重力圏を超えている仲間に入れていただきましょうか。

● お待ちしています

このレターがお手元に届く頃は、願書締め切り二週間前。今年度も4月から学ぶ学生募集の最終段階に入りました。主にあって志が与えられ、状況が整い推薦が得られたら、ぜひ本校を受験してください。正規生希望も聴講生希望も、まずは神学校事務所にお電話をくださいますように。第60回卒業式は3月11日（月）、震災後2年の日。あの日から三日後の第58回卒業式を中止した苦い記憶がよみがえります。卒業式が出来るのも当たり前ではなく恵みなのだとわかった、その思いを今回もたいせつにしたいです。基礎科3名、専門科4名が卒業予定で、当日の説教は、何名もの献身者を送ってくださっている、フェローシップ・ディコンリー小竹向原教会の上田富久子牧師。なんと筆者の神学校クラスメートです（当時を聞き出さないように）。昨年に続き女性の教職者が卒業式で語ってくださるのもステキですね。送り出す器を励まし祈るため、ぜひおいでください。学生会による華やかな感謝会等の諸準備も始まっていますよ。入学式は4月1日（月）。何名が新生席に座るのか楽しみです。説教は、就任10年を迎えた校長が担当いたします。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業を控えた方々の学びと卒業後の働きが守られるように。在校生の後期授業（3月8日終了）が最後まで守られ、新年度に向かって良き備えが出来るように。
- ・ 3月1日の入学試験に向けて、新年度、新たに学ぶ献身者が多く与えられるように。
- ・ 病気療養中の卒業生、休学中の在校生がいやされ、働きや学びに復帰出来るように。
- ・ 不安な社会情勢の中、本校の運営が守られ、主にある献身者育成の使命を果たせるように。